



教室は、○○○○ところだ！

副校長 平田あや

雨に濡れたあじさいがひとときわ美しい季節になりました。日頃より、学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、「教室は、○○○○ところだ」。この中に、どんな言葉が入ると思いますか。「勉強するところ」「友達をつくるところ」「成長するところ」など、いろいろなイメージが浮かんでくることでしょう。

教室は まちがうところ

きょうしつ

教室はまちがうところだ

みんなとしどし手を上げて

まちがった意見を 言おうじゃないか

まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない

まちがったものを わらっちゃいけない

まちがった意見を まちがった答えを

ああじゃないか こうじゃないかと

みんなで出し合い 言い合うなかで

ほんとのものを 見つけていくのだ

そうしてみんなで 伸びていくのだ



*「教室はまちがうところだ」(藤田晋治 作)より

私は学級担任をしているとき、左の詩を毎年子どもたちに読んで聞かせ、教室に掲示していました。新しい力を身につけるとき、人は様々な失敗をします。失敗をしたら、誰でも恥ずかしい思いをしましょう。でも、「失敗」は何か「チャレンジした証」です。失敗を恐れて何もしないと、人は絶対に成長しません。ただ「失敗」を「成長」につなげていくためには、その原因を周りのせいにはいきません。落ち着いて振り返れば、絶対に自分自身が変わるべきポイントが見つかります。

学校は、子どもたちが様々な経験を通して、成長する場です。だから、失敗が許されることなくではいけません。失敗をしたら、次に同じ間違いを繰り返さないように努力したり工夫したりすればよいのです。そして、どの子も安心してチャレンジするためには、失敗をしたときにいつでも戻れる場所、つまり「心の居場所」が必要です。

子どもたち自身から、もしかしたら担任や友達の保護者から、我が子の「失敗」エピソードを聞かされることがあるでしょう。ただ責めたり叱ったりするだけでなく、「どうして失敗してしまったのか。」「次からどう行動すればよいのか。」を、じっくり一緒に考えてあげてください。そして「失敗を次に生かそうね。」と励ましてあげてください。

6月後半から7月にかけて、オープンスクールや6年生宿泊体験学習、個人面談等が予定されています。また、9年生にとっては引退をかけた総合体育大会、各コンテストがスタートしていきます。保護者の皆様、地域の皆様と連携して、子どもたちを見守り支援していきたいと思っております。学校、そして家庭や地域が、子どもたちにとっての「心の居場所」となりますように、これからもご協力をよろしくお願いいたします。